

## 看護専門学校教員の抱えるジレンマの諸相

著者	湯浅 智子
発行年	2007-03-26
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10422/415">http://hdl.handle.net/10422/415</a>

氏名(本籍)	湯浅智子 (和歌山県)
学位の種類	修士(看護学)
学位記番号	修士第82号
学位授与年月日	平成19年3月26日
学位論文題目	看護専門学校教員の抱えるジレンマの諸相

## 論文内容要旨

※整理番号	84	(ふりがな) 氏 名	ゆあさ ともこ 湯浅 智子
修士論文題目	看護専門学校教員の抱えるジレンマの諸相		
<p>看護専門学校教員は、看護専門職業人を育成する役割をもつため、教員自身に専門職としての能力と教育者としての能力を具備していることが、求められている。しかし、激変する看護基礎教育の制度の中で、高い職業的価値観や自らの信念に基づいて、理想の教育を求めれば求めるほど、現実の職務遂行において壁に突きあたざるを得なく、看護専門学校教員は多くのジレンマを抱えていると考えられた。本研究は、そのジレンマを明らかにすることを目的として実施した。</p> <p>近畿圏内の看護専門学校教員 15 名を対象に、半構成的面接によりデータを収集し、質的帰納的に分析を進め、その結果、看護専門学校教員の抱えるジレンマは、以下の 3 つのカテゴリーに整理することができた。カテゴリーは、1. 「職務に伴うアイデンティティのゆらぎ」、2. 「集団成員としてのアイデンティティのゆらぎ」、3. 「価値や信念のゆらぎ」と命名した。「職務に伴うアイデンティティのゆらぎ」は、自らの職務遂行にあたり、判断に迷い、これでいいのだろうかかと自問している状況で認められ、『地位の不確かさ』、『役割期待とギャップ』、『役割規準の不確立』、『責務の不達成感』のサブカテゴリーで構成されていた。「集団成員としてのアイデンティティのゆらぎ」は、看護教員個人の所属に関する意識のゆらぎであり、『主張の衝突』、『調和の苦悩』のサブカテゴリーで構成されていた。「価値や信念のゆらぎ」は、自らの存在を認識することが出来なかつたり、生き甲斐や拠りどころを見失っている状況で認められ、『足場を見失う』のサブカテゴリーで構成されていた。</p> <p>分析のプロセスで明らかにされた、看護教員のジレンマの諸相は、多様であった。</p> <p>『地位の不確かさ』は、看護職全体に高学歴化に進んでいる現象と、自分の学歴の相対化からもたらされ、『役割期待とギャップ』で、期待される教員像に固執し、それを規準に自己評価し、過剰な責任を感じていることに由来した。『役割規準の不確立』は、主体的に自律的に行動できる教員が、職場で与えられる役割が拡散的で多岐にわたり、境界が不明瞭であることから規準を求め、『責務の不達成感』は、広範な多種多様な職務を担当し、しかも全ての範囲にわたり不十分なまま職務を遂行することに追われていた。『主張の衝突』、『調和の苦悩』は、お互いに相手の価値観を受け入れられないまま、集団として働いていた。教員間で教育観・指導観の相違があり、教員間の調和が図られず、相互に苦悩していた。『足場を見失う』は、職務が多種多様で、広範囲のため全てが不十分なまま職務を遂行し、生き甲斐や拠りどころを見失っていた。総括として、看護専門学校教員の抱えているジレンマは、アイデンティティのゆらぎであった。ジレンマをジレンマのままに引き受け、自らに責任を問い、それを解決できる力を備え、行動できることが望まれる。</p>			

- (備考) 1. 研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。(1200 字程度)  
2. ※印の欄には記入しないこと。